所感

年を重ねる

鎌田英明

この「神皮23号」が発刊される７月の例会では、神奈川県皮膚科医会創立50周年を祝う式典が執り行われていることだろう。

「神奈川県皮膚科医会」は終戦直後からの黎明・発展期を経て昭和41年７月に神奈川医学会分科会の一員として改めて創立され、今年創立50周年を迎えた。

神奈川県皮膚科医会として歩み始めた当医会が、その後も着々と活動を重ねていることは、今更私が言うまでもなく会員の皆様も良くご存じの通りである。

年３回開催される例会も途絶えることなく続けられており、単に回数を重ねているだけではなく新たな着眼点に基づいたテーマが掲げられ、年々更なる発展を重ねてきていることは素晴らしいことだと言える。更にコメディカルと共に研修する「在宅勉強会」を平成８年という早い時点で開始しているなど、まるで今日の高齢化社会における在宅医療への転換という流れを見越していたかのような先見性にも驚かされる。

詳細は、来年発刊予定の「神皮24号」50周年特集に譲るが、当医会は設立当初から綿密に作成されたプログラムの下、積極的に学習に取り組んでおり、先輩諸氏の意識の高さに驚かされるとともに、後輩としてこの伝統を守っていく責任を常に痛感させられている。

さて、年を重ねるという意味では神皮のみならず私自身もそれなりに重ねていて、最近「寄る年波」という言葉を実感することが多くなった。大学を出て40年近く経つのだから当たり前だが、まず運動面では、老齢の患者が「ほんのちょっとの段差でこけちゃって……」と擦過傷で受診することも多いが、先日私自身がなんでもない駅の階段でこけて一回転した時には我ながら何が起こったか分からず、「大丈夫ですか？」と覗き込んでくれた奇特な青年に、力ない笑みを浮かべながら軽く手を振るのがやっとだった。

次に視力の衰えだ。最近オペの際のナイロン糸による細かい縫合や抜糸の際の見づらさを頓に感ずるようになった。疣贅の冷凍凝固も、極小の疣贅を見つけて来る患者には正直なところ閉口することもある。同様の苦労をされた経験をお持ちの先生方も多いのではなかろうか。

さらに年と感ずるのは人の名前や物の名前が出てこないことで、「ほら、なんとかさんにいただいたあれだよ。」と、家内との会話も要領を得ない。もっと致命的なのは薬の名前が出てこない時である。電子カルテの画面に向かって脂汗を流している医者に向けられる患者の不審に満ちた視線が痛い。

この電子カルテにも原因の一端があるように思うのだが、手書きカルテや処方箋の時代には、メーカーからもらうボールペンがどんどんなくなるくらい文字を自分で書いていた。しかし、電子カルテでの処方は頭何文字かを入力するだけで勝手に候補の薬剤名を揃えてくれる優れものになり、更にはコピペという伝家の宝刀がある上に、前回の処方をそのままワンクリックで持ってきてくれる機能まで備えている。ボールペンも溜まる一方である。

画家などの芸術家は、亡くなるまで認知症になることも少なく元気で過ごされる方が多いと聞く。頭で構想を練り、手を動かして物を作り上げていく行為にその秘訣があるのだろうか。もとより無芸大飲の身、今更芸術的才能は欠片を掘り出すことすら難しいであろうから、世間や家族に迷惑をかけないで済むように、頭と体を使う努力を日々心がけながら年を重ねていかねばと感ずる今日この頃である。

副会長就任にあたって
私と神奈川

袋　秀平

私の父はサラリーマンでしたので、その転勤に合わせて東京や名古屋などを転々としましたが、中学の途中で横浜に住むようになってから、神奈川県にほぼ定着しました。以後40年ほど、人生の大半を神奈川県で過ごしております。

私は昭和60（1985）年に東京医科歯科大学を卒業し、平成５（1993）年に横須賀市立市民病院に着任いたしました。医科歯科の出身者は神奈川には少なく、ひとり医長でもあったため寂しく診療しておりましたが、当時、横須賀共済病院の皮膚科部長でいらした一山伸一先生が声をかけてくださり、毎月の症例検討会にお邪魔するようになりました。また、患者依頼がきっかけであったように記憶しておりますが、国際親善総合病院の山田裕道部長にもお誘いいただいて勉強会に参加させていただいたり、横浜市立大学に非常勤医派遣をお願いしたりして、徐々に皆様とのつながりができてまいりました。

実はそれより前の東京医科歯科大学在籍中に、当時大学におられた片山一朗先生に「高校の先輩がおるでぇ」と言われて、浅井俊弥先生と引き合わせていただきました。高校の２期先輩である浅井先生にはその後も大変お世話になり、いろいろとご指導いただいております。その浅井先生と一緒に神皮の副会長を務めさせていただけるのはとても光栄で、また感慨深いものがあります。

以前本誌の「シリーズ・開業」に寄稿したことがあるのですが、入院患者も多く、休みももらえない勤務医生活に疲れて開業を考えたときに、現在の港南台の物件を紹介されました。それまで縁もゆかりもない場所でしたが、お世話してくださる方々を信頼して開業に踏み切りました。平成11（1999）年４月のことになります。その年の９月に初めて往診の依頼がありました。当時はまだ今ほど忙しくなく、断る理由がなかったため往診をし、そのまま往診の世界にどっぷりとはまってしまいました。

いつかの例会か勉強会の時だったと思います。栗原誠一先生が、往診をしているならと在宅医療委員会へお誘いくださいました。また日本褥瘡学会、日本臨床皮膚科医会の在宅医療委員へと引き入れてくださいました。袋というと往診ばかりしているように思われているかも知れません。決してそんなことはないのですが、往診・在宅、褥瘡関連の仕事をたくさんいただいているのは間違いありません。

神奈川県皮膚科医会は多様な人材を取り込みながらも不思議なまとまりのある素晴らしい医会であると思います。私自身はあまり社交的ではなく、友達も少ない方と自覚しておりますが、人生の要所要所でいろいろな方々とのご縁に恵まれて今まで生きてこられたように思います。そうしたご縁に感謝しつつ、重責ではございますが副会長としての役割を果たしてまいります。経済的な面などいろいろと難しい問題も生じつつある昨今ですが、会員のみなさまと努力していきたいと思います。

みなさま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副会長退任ご挨拶
「神皮」と私

増田智栄子

この度、副会長を退任することとなりました。長い間お世話になり有難うございました。

有事の際には立ち働く所存で控えておりましたが(とても出来る器ではございませんが)、幸いなことに前面に出なければならない事態にもならず、副幹事長を10年、副会長を６年、計16年の任期を全うすることができました。皆様のお陰と感謝申し上げます。

私と神皮との出会いは、30年ほど前となります。横浜市民病院に勤務していた頃、部長の加藤安彦先生に臨床をするうえで役にたつからと勧められて、神奈川県皮膚科医会に入会しました。

その後、当時は未熟な新人医師も一人勤務の病院に出されまして、一番困ったのがレセプトでした。医事課からレセプトの問い合わせが来ます。大学でチェックをしたことはありましたが、細かいルールまで分かりません。そんな折、神皮に参加すると、いとも丁寧に処置点数の算定の仕方をレクチャーされていました。食い入るように見て聞いて、大変ためになったのが忘れられません。

卒後10年余りで開業しましたが、開業前の例会懇親会では、ご挨拶までさせていただけました。アットホームな会で、会員一人ひとりまで気を配っていただき、今も会員を大切にする伝統は引き継がれています。

ところで、開業後すぐの頃、皮膚科医は外来で患者を待っているようでは明日がないと騒がれ始め、「在宅」の勉強を始めました。内科医からの依頼で初めて往診に行った先が、角化型疥癬だったのですが、ご多分にもれず手の慢性湿疹と誤診しました。患者の奥様の夜間痒くなる腹の丘疹をみて、初めて患者本人も疥癬と気付き、「しまった～」と血の気が引きました。当時は訪問看護ステーションもなく、区役所の巡回看護師とともにγ-BHCで治療し、苦労しましたが、皮膚科医の往診が認知され、次々と往診依頼が来て、褥瘡や疥癬を多数診ておりました。そんな折、在宅医療委員会を立ち上げましょうと原紀道先生や栗原誠一先生からお誘いがかかり、発足準備から関わらせていただきました。聞く立場から企画する立場になった始まりでした。

数年後の平成12年の春に、原先生から「副幹事長になって欲しい」とお電話があり、全く自信はありませんでしたが、勇気を出してお引き受けすることにしました。

その後は、幹事長、会長と歴任されました栗原先生とともに神皮のシステム作りに参加させていただきました。一時は副幹事長、在宅委員会委員長、健保委員会委員長と役目が重なり、物理的にも精神的にも眠れなくなった時もありましたが、いろんな方と接することが出来ましたし、組織の成り立ちも勉強させていただき、私の貴重な財産になったと大変有難く思っております。

一方、神皮の先生方とはよく遊びました。原先生の企画で冬の鎌倉・東慶寺で講話を聞いたり、栗原先生の企画で桜の頃に鎌倉・高徳院で原先生を偲ぶ会をしたり、東京の日臨皮の二次会で屋形船に乗ったり、40周年記念のJIMPI BANDで演奏したりなど枚挙にいとまがありません。

自分の生活の一部として、神皮で勉強し、大いに楽しんで参りました。何を残せたのだろうと考えても思い浮かぶものはありませんが、いろんな先生から「増田先生がいると安心」と言っていただいたことが、唯一の功績と思っています。

この４月から横浜市皮膚科医会会長に就任しました。今までの経験を生かし、今度は横浜に貢献していく所存です。よろしくお願い申し上げます。

最後に温かく見守っていただきました会員の先生方に感謝申し上げるとともに、自由闊達な神皮の気風が長く続くことをお祈り致します。